

第5章 [目指すまちの姿5]

豊かな資源をいかし、 活気にあふれた糸満市

（産業）

- 政策1 産業人材を育成する
- 政策2 農業・水産業を活性化させる
- 政策3 商工業・観光業を活性化させる
- 政策4 産業の魅力に磨きをかける

政策 1 産業人材を育成する



1. 政策の方針

産業の発展や生産力向上のためには、経営改善や人材育成も不可欠です。産業や地域事業者それぞれの特性に即しながら、現代社会のニーズに応じた競争力を高め、人づくりや人材の確保・働き方の改善などに取り組んでいきます。

2. 現状・課題

本市は豊かな海や亜熱帯の気候風土に恵まれ、特色ある農水産物を生産し、観光資源も豊富です。しかし経営が不安定なことや担い手不足が大きな課題であり、今後の人口減少や社会の変化を乗り切る知恵と体力が求められます。

また、移住者や新たな生活様式での多様な働き方・働き方改革への対応も求められています。

農業では、農業経営戸数 776 戸のうち経営耕作面積が 1ha 以下の小規模農家が 610 戸と大半を占める上、従事者が漸減し、さらに高齢層が 50%を超えるという担い手不足が課題となっています。

水産業では、新規漁業者の減少および高齢漁業者の引退等により、漁業の担い手が減少していることから、後継者を確保するために新規漁業者をひきつける魅力の創出を図る必要があります。また、新市場の整備に伴う水産物加工施設等の新たな人材確保や受け入れ態勢を整える対応が必要です。



沖縄水産高校生と小学生による海洋資源研究

商工業では、国道 331 号糸満道路開通を背景に商工事業者の事業ニーズは高まっている一方、労働条件が厳しい中小企業が主体であるため、事業規模拡大や継続のための人材確保と人材育成が課題となっています。

観光業では、大型ホテルの立地および新たな観光交流施設の整備により、観光入域客数の増加が見込まれます。また多様化する観光客のニーズに応え糸満観光の魅力を向上させるためにも、観光関連事業で活躍する人材の確保・育成や観光ボランティアガイドの育成および活用が求められています。

3. 指標

指標名	実績値 (H30 年度)	目標値 (R7 年度)	目標値 (R12 年度)
担い手農家数 [人]	101	110	115
担い手漁業者数（組合員） [人]	107	112	117
若手経営者研修会回数（累計） [回]	2	10	20
観光ガイド登録人数 [人]	13	20	25

4. 施策の展開

（1）農業の人材育成

後継者不足を解消するため、担い手育成に力を入れていきます。

- 担い手の育成（新規就農者や認定農業者等の育成・確保など）
- 新たな担い手の創出（シニア世代や外国人、障がい者の活用推進など）
- 組織の育成強化（農作業受託組織の育成、技術指導や経営指導および法人化支援など）



農業者研修

（2）水産業の人材育成

新市場開設の優位性をいかし、関連施設の整備による漁業従事者の確保に力を入れていきます。

- 担い手の育成（民間との連携によるIoTを活用した新たな養殖業の促進、新規漁業者の育成・確保など）
- 新たな担い手の創出（教育機関や普及機関等の連携強化、外国人雇用推進など）

（3）商工業の人材育成

商工業における人材育成と人材確保に力を入れていきます。

- 商工会と連携した事業主の育成（商工会の経営発達支援事業による小規模事業者への経営分析研修会の開催や指導員の派遣など）
- 新物流団地等での新たな雇用の創出（ITを活用する人材育成、若者からシルバー世代の雇用、障がい者および外国人の雇用推進など）
- 組織の育成強化（商工業団体等の組織強化や連携による指導力向上の推進など）
- 中小企業の働き方改革の推進（情報の提供など）

（4）観光業の人材育成

糸満観光の魅力向上、持続的な観光地域づくりにむけて、観光人材の育成に努めます。

- 糸満市観光協会の体制強化（環境づくりおよび機動的に観光振興事業に取り組むための連携・支援など）
- 地域の魅力を発信するガイド人材の育成（平和・まち歩きガイド養成講座の開催など）
- 観光関連事業で活躍する人材の確保・育成の支援（セミナーやフォーラム、ワークショップの開催など）
- 地域での観光プログラム構築、その運営を担うコーディネーターの育成、起業・創業の支援（マーケティングおよびブランド戦略等の講習会の開催など）

5. 個別計画等

- ◇ 糸満農業振興地域整備計画書
- ◇ 糸満市水産業振興基本計画

- ◇ 糸満市観光振興基本計画
- ◇ 糸満市6次産業化・地産地消推進戦略

政策 2

農業・水産業を活性化させる



1. 政策の方針

亜熱帯島嶼^{とうしょ}地域の環境をいかした農業・水産業は、本市の基盤となる産業です。

農業においては、地域の特色をいかし、また持続可能性や環境との調和を図りつつ、生産基盤の充実、新技術の活用、競争力のある品目の導入等の取り組みによって、生産力向上や安定的な収益の確保を図ります。

また、水産業においては、糸満北地区において新市場の運営が始まることから積極的な連携と活用を図ります。加えて、糸満市水産業振興センターの整備にむけて取り組みます。

2. 現状・課題

本市の農業は、サトウキビを基幹に、野菜・花き・畜産と多品目生産を特徴としています。一方で、農業生産基盤整備の促進、農産物の品質向上、耕作放棄地等が課題となっており、生産基盤・栽培施設の整備等が求められています。多様な資源活用のため、農業用廃プラスチック処理や農畜産廃棄物の利活用などさらなる充実を図る必要があります。また、畜産業においては、市場のニーズに合った肉用子牛の生産を図っていく必要があり、今後も優良母牛の更新事業、また、増加傾向にある山羊生産を推進していくため、生産技術の確立と施設導入が求められています。

今後、農業振興を図っていくためには、持続的農業、国際規格への対応、スマート農業など新たな分野への施策展開も必要となっています。

観光農園については、活用されていない施設があり、集客が伸びない原因のひとつとなっています。今後は、施設の有効活用を図るとともに、魅力ある取り組みが求められています。

水産業の基幹魚種として、ソデイカやマグロ漁業は、概ね安定した経営状態を保っています。今後は新市場開設・運営が行われることから、新市場との連携および水産物の流通加工拠点機能の確保を図ることが必要となっています。また、魅力ある地域資源等が観光への活用がなされていないことから、観光漁業の取り組みが求められています。



マグロの初セリ

3. 指標

指標名	実績値 (H30 年度)	目標値 (R7 年度)	目標値 (R12 年度)
土地改良の整備率 [%]	62	69	74
肉用子牛生産頭数 [頭]	847	860	880
漁獲量 (属地) [t/年]	2,050	3,600	4,700

4. 施策の展開

（１）農業の振興

本市の特性をいかした持続的で魅力的な農業の振興を図り、高収益構造へ転換していくため、基盤となる土地や施設、技術の活用にも力を入れていきます。

- 農業生産基盤施設の整備および利用促進（各地の特性に応じた農業生産基盤整備の推進、農地や地下ダムなど生産基盤の有効利用の促進など）
- 農業生産の充実と観光農業の推進（生産力向上・品質向上・競争力向上を図るため近代化施設や優良品種の導入、病虫害対策、環境保全型農業等の推進など）
- 耕作放棄地の解消（農地中間管理機構の活用、担い手への農地集積・集約など）
- スマート農業の推進（Society5.0 にむけた IoT を活用した農作業効率化・生産性の向上など）
- 未利用資源の適正処理・利活用推進（廃プラ適正処理・畜産廃棄物の利活用促進など）
- 畜産業の活性化の推進（優良母牛の導入推進、山羊生産基盤等の導入推進など）
- 観光農園の活性化の推進（施設の有効活用・新たな魅力ある作物の活用など）
- 地下ダム受益地再編（糸満北部地域を含む農業用水確保および下水処理水利用の検討など）

（２）水産業の振興

新市場および関連施設と連携し活用する取り組みとともに、養殖漁業等の推進、資源管理の生産技術向上などに総合的に取り組み、競争力を高め活力を維持します。

- 漁場の保全・整備（漁場環境の保全と復元、漁場整備の確立など）
- 持続的漁業の振興（漁業技術の継承・開発、漁業経営の充実、資源管理型・養殖・栽培漁業の推進、糸満市水産業振興センターの整備など）
- 漁港の整備（漁港施設・関連施設の整備促進、ふれあい公園既存施設の機能向上・有効活用など）
- 水産物流通・加工業等の振興（特産品開発、水産物流通・加工業の振興、消費拡大の取り組みなど）
- 海やから（※1）のまちづくり（漁業の歴史・文化資源の保全と継承・活用および情報発信・観光漁業の推進など）

（※1）海やから...沖縄の方言では漁業者を「海人（うみんちゅ）」と、賢い者や秀でた者を「やっから」という。したがって「海やから」は、漁猟に長けた者を指す言葉と理解される。

（３）経営・労働環境の強化・充実

農家、漁家のニーズを踏まえ、経営環境充実へのきめ細かな支援を展開します。また働き方の多様化やグローバル化など社会の動きに応じた労働環境充実の支援を図っていきます。

- 労働環境等の支援（農薬適正使用の指導および啓発、家族経営協定等の推進など）
- 経営環境の充実（漁業生産部会の強化および各部会の活動支援、複合経営の促進など）

5. 個別計画等

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| ◇ 糸満市農村振興基本計画 | ◇ 糸満農業振興地域整備計画書 |
| ◇ 糸満市 6 次産業化・地産地消推進戦略 | ◇ 糸満市分散型エネルギーインフラプロジェクト・マスタープラン |
| ◇ 糸満市水産業振興基本計画 | |

政策 3

商工業・観光業を活性化させる



1. 政策の方針

商工業・観光業では、既存商店街の活性化を図るとともに、新たな物流団地等を整備することにより、さらなる発展を目指します。また、南部地域を訪れる人々に本市の魅力をより楽しんでもらうために、糸満市観光文化交流拠点施設「くくる糸満」を新たな観光の核として交流人口の拡大を図り、広域連携による滞在型観光が充実できるよう取り組みます。

2. 現状・課題

本市は県内でも製造業が盛んな地です。物流ニーズの拡大や国道 331 号糸満道路全線開通を背景に、市内への製造業・流通業の立地需要は高まっていますが、受け皿が十分でない状況です。今後、真栄里地区で計画されている新物流団地等の整備が待ち望まれています。一方、糸満・西崎地区等では商業店舗の衰退が目立ちますが、再整備された公設市場やマンション建設などを契機に、周辺地域の活性化が期待されています。

観光では、本市には史跡・戦跡・自然・歴史・文化・伝統に基づく多彩で優れた観光コンテンツ、大型ホテルの立地、良好な交通アクセスといった好条件が備わっており、ジョン万次郎上陸の碑や糸満市場いとま〜る、情報発信・体験・交流の拠点となる「くくる糸満」など新たな観光施設の整備も進んでいます。今後は、平和学習等の豊富な観光資源を観光客の視点で伝えるガイドおよびプロモーションの体制強化、体験プログラムの充実・魅力化、近隣市町と連携したスポーツツーリズム・MICE 等の広域観光の推進、観光関連団体等や他産業との連携による魅力ある商品開発などに取り組み、滞在時間の延長や再来訪に繋がる観光地づくりが必要となっています。



糸満市場いとま〜る

3. 指標

指標名	実績値 (H30 年度)	目標値 (R7 年度)	目標値 (R12 年度)
新規創業・進出企業数 [社/年]	112	118	123
主要観光施設等入館者数 [人]	1,324,746	1,500,000	1,600,000
市内主要ホテルの観光客延べ宿泊者数 [人]	296,608	600,000	700,000
うち外国人 [人]	87,291	100,000	110,000
市内民泊延べ宿泊者数 [人]	5,639	10,000	11,000

4. 施策の展開

（１）商工業の振興

市内事業者の特性をいかながら地域内経済循環の活発化を図り、まちづくりとの連携や異業種連携、組織力向上などさまざまな場面で連携を強めることによって足腰の強い商工業を育て、雇用の拡大や安定化を図っていきます。

- 商業活動の活性化（商工会や青年会議所と連携した異業種交流、研修会やセミナーの開催、企業間物品供給・共同商品開発・金融支援など）
- 各種優遇制度を活用した工業団地等の活性化（税制特区・地域制度の活用推進など）
- 新たな物流団地の整備（企業誘致および制度の活用推進など）
- 情報通信産業等の企業誘致（企業誘致および制度の活用推進など）

（２）観光の振興

糸満市観光文化交流拠点施設「くくる糸満」も活用しながら、本市の豊かな資源に観光資源として光をあて、魅力ある観光地づくりを推進します。また近隣市町とも連携して、これら資源をいかした滞在型観光を推進します。

- 魅力ある観光地域づくりの推進（自然、歴史文化、伝統行事などの地域資源をいかした糸満市観光の新たな魅力づくり、観光拠点としての糸満市観光文化交流拠点施設「くくる糸満」の活用推進など）
- 滞在型観光の推進（多様なメニューの開発や糸満市観光農園などの既存施設等の活用、観光関連事業者等との連携による受け入れ体制の整備、ユニバーサル観光・新たな旅行スタイルへの対応など）
- 近隣市町との連携による広域観光の推進（南部広域圏の市町と連携し、利用者目線での観光商品開発や受け入れ体制強化推進、効果的なプロモーションなど）



糸満市観光文化交流拠点施設「くくる糸満」
常設展示室イメージ図

（３）経営・労働環境の強化・充実

市内事業者のニーズを踏まえ、経営環境充実へのきめ細かな支援を展開します。また働き方の多様化やグローバル化など社会の動きに応じた労働環境の充実を支援し、働きやすい糸満市の実現を目指します。

- 経営環境の充実（小規模事業者をはじめとする市内事業者への情報提供や経営基盤強化、経営体質改善の支援など）
- 労働環境の充実（労働環境改善のための啓発研修、広報活動推進、外国人など多様な労働者の受け入れ環境づくりの推進など）

5. 個別計画等

◇ 糸満市観光振興基本計画

◇ 糸満市6次産業化・地産地消推進戦略

政策 4

産業の魅力に磨きをかける



1. 政策の方針

本市の持つ多様な資源をいかし、生産物やサービスの付加価値を高めるため、1.5 次産業化や 1 次産業から 2 次産業、3 次産業まで多様な業種が連携して付加価値を高める 6 次産業化の推進に引き続き取り組むとともに、異業種間のネットワークや産官学連携を積極的に進めます。

観光産業はそれ自体が糸満市の魅力を活用し、ブランドを向上させるものです。そのため、観光産業を推進し、地場産品や個性ある文化をいかした「糸満ブランド」を磨き、その魅力を積極的に伝え、地域の産業を誇れるものとしします。

2. 現状・課題

本市は農業や漁業の盛んなまちであるのみならず、加工流通業が集積し、沖縄らしさ満載の市場があるなど、生産物の価値を高める要素が豊富にあります。地域の生産物をいかした道の駅いとまんは、「道の駅ランキング 2019」（旅行サイト「トリップアドバイザー」調べ）で全国トップを獲得する人気を誇っています。また平和学習で訪れる観光客も多く、魅力的な観光資源になりうる有形無形の文化遺産も市内随所に存在しています。



道の駅いとまん内のファーマーズマーケット

このような高いポテンシャルがあり、美らキャロットなどの特産品もある一方、まだ「糸満ブランド」は十分には認知されているとはいえ、小規模な事業者が多いことから商品開発や安定供給、流通、発信といった面が弱い傾向があります。近年、ふるさと納税の利用促進が効果を上げており、今後もその高い発信力を利活用した PR が求められています。

また、市内に立地を希望する事業者は多いものの土地需要に応えきれていない面があります。観光面でもいわゆる素通り観光が多く、来訪者に本市の魅力を伝えきれていない現状があります。

近年は 6 次産業化など異業種の連携による付加価値向上への取り組みを進めてきていますが、今後も引き続き課題です。

3. 指標

指標名	実績値 (H30 年度)	目標値 (R7 年度)	目標値 (R12 年度)
地場産品商品開発数 [品/年]	3	5	7
産学官連携会議数 [回/年]	4	11	21
6 次化商品開発数 [品]	2	7	12

4. 施策の展開

（1）新たな産業や生産物の開発・整備

魅力ある生産物やサービスを創出し、提供します。そのために、市内外の人材の活用や連携を推進するとともに、産業活性化のための基盤整備を進めます。

- 産官学連携による新たな製品開発や産業振興の促進（県研究センターや大学等との産学官連携、実業学校との連携による新たな産業の開拓や新製品開発の推進、民間事業者・大学・市の包括連携協定に基づく新たな産業振興の展開など）
- 1.5 次産業、6 次産業化の推進（異業種交流や農商工連携事業の活用による産業の高次化推進など）
- 拠点施設の整備促進（工業団地、物流団地、ファーマーズマーケットなど、産業振興のための拠点施設整備の促進など）
- 国・県の交付金等を活用した支援（6 次産業化・地産地消法に基づく地域資源を活用した商品開発や直売所・加工所等推進など）

（2）ブランド化の促進

ブランド戦略を積極的に推進していくとともに、裾野を広げます。

- 糸満ブランドの付加価値向上（開発した製品の糸満ブランドとしての付加価値向上戦略の展開、情報発信強化、販路拡大、ふるさと納税への活用など）
- 商標登録等の知識の普及（ネーミングやデザイン開発、商標登録等に関する知識の普及促進など）
- 販路開拓・拡大への支援（県外商談会への出展支援など）
- 新商品開発への支援（試作品づくりなど必要な調理場所等の提供など）



ふるさと納税における特産品の活用

5. 個別計画等

◇ 糸満市 6 次産業化・地産地消推進戦略

目指すまちの姿 5 「豊かな資源をいかし、活気にあふれた糸満市」 糸満市 SDGs のゴール（目標）

豊かな海の恵み、大地の恵みを将来にわたっていかせるよう、海洋資源や耕地が適正に管理されており、漁業・農業の発展とともに観光業が盛んになっています。

地域の商工業が活性化することにより、地元経済がさらに元気になっています。

イノベーションによって生産性が向上し、働き方も改善されて地域でのしごとの魅力が高まっています。

政策 1	政策 2	政策 3	政策 4
    	    	   	  